

KÄRCHER

THE WHOLE AT A GLANCE

サステナビリティ・レポート 2021

**BE THE
DIFFERENCE**

www.kaercher.com/CSR

目次

サステナビリティレポート

本レポートでは、サステナビリティ分野におけるケルヒャーの主要数値、目標、活動内容を詳述しています。データは2021年（2021年1月1日～2021年12月31日）現在のものとなりますが、比較の基準として2019年および2020年の主要数値もところどころに記載されています。報告された数値およびデータは、特に断りがない限り、一般的にケルヒャーグループのグローバルな活動に関連するものです。「従業員と社会」セクションの情報は、Alfred Kärcher SE & Co. KGを対象としています。「生産における環境保護」のデータは、ドイツ、ブラジル、中国、イタリア、メキシコ、ルーマニア、米国にあるケルヒャーグループの生産・物流拠点に関するものです。

本報告書は、2021年以降のグローバル・レポーティング・イニシアティブ（GRI）の現行版の基準に従って作成されています。使用したGRI開示の概要は、レポート末尾のGRIコンテンツインデックスに記載されています。外部からの検証は行っていません。本レポートの編集締め切りは2022年4月30日でした。2021年版サステナビリティレポートは、2022年7月に発行されました。以後サステナビリティレポートは毎年発行されるものとなります。

詳細については以下まで
www.kaercher.com/CSR

3 ごあいさつ ハートムート・イエナー

01

4 ケルヒャーにおけるサステナビリティ 5 会社概要 6 価値に基づく企業展開 8 サステナビリティ管理 11 サプライチェーン

02

12 生産における環境保護 13 気候変動対策 15 資源効率と水の管理

03

17 革新的で環境に配慮した製品 18 製品の品質と安全性 19 環境に配慮した画期的な製品アイデア 21 資源を有効活用した製品・包装

04

23 従業員と社会 24 従業員への責任 25 従業員の育成 26 機会均等と多様性 27 労働安全衛生 29 社会貢献

31 GRI コンテンツ・インデックス

DEAR READERS,

ごあいさつ

コロナウィルスの大流行により、2021年はまたしても困難な年となりました。しかし、多くの困難にもかかわらず、ケルヒャーは記録的な売上高で年を越すことができました。

この成功の決定的な理由のひとつは、私たちが短期的なトレンドに依存することなく、長期的なアプローチでビジネスを展開していることです。サステナビリティ（持続可能性）は、常に私たちの企業理念の重要な一部となっています。

ファミリー経営の企業として、私たちはサステナビリティとは、あらゆるレベルにおいて将来の世代を念頭に置いて行動することであると理解しています。ケルヒャーのサステナビリティは、環境という意味でも、偶然に任されるものではなく、分析的なプロセスと慎重な決断の結果なのです。私たちは、国連の「持続可能な開発目標」17箇条を、自らの活動の指針・基準としています。

ケルヒャーは責任ある行動をとり、「良き企業市民」として、社会と環境の幸福に貢献したいと考えています。なぜなら、地球の保護と保全をビジネスの中心に据えてこそ、将来的に成功することができるからです。

この報告書では、私たちのサステナビリティに対する理解がどのように実践されているかについての情報を提供しています。この報告書は、国際的に認められているGlobal Reporting Initiativeの報告基準に基づいているため、私たちの行動を比較可能、測定可能、かつ透明性のあるものにしていきます。

この報告書は、企業戦略の一環として、当社のサステナビリティ戦略2025に焦点を当てています。この戦略により、私たちはケルヒャーの未来がサステナビリティと直結していることを示しました。「ゼロエミッション」、「リデュース、リユース、リサイクル」、「ソーシャルヒーロー」の3つを中心に、私たちが達成したい明確な対策と目標を掲げ、その実現に取り組んでいます。私たちが非常に順調に前進していることがおわかりいただけると思います。

これは、2021年12月にケルヒャーが受賞したドイツ・サステナビリティ・アワード2022でも確認されています。この賞は私たちにとって特別な荣誉であり、表彰であると同時にインセンティブにもなります。しかし、この賞は何よりも、ケルヒャーで働くすべての人々のコミットメントの結果なのです。なぜなら、戦略的な方向性としてのサステナビリティは、すべての人が実行し、採用して初めて実を結ぶからです。

2021年に経済的な成功を収めることができたのは、私たちの企業開発が人と環境に重点を置いているに基づいています。そしてこれまでずっとそうであったように、今後も私たちのベンチマークであり続けるでしょう。

ケルヒャーより心をこめて



ハートムート・イエナー
最高経営兼会長





01

ケルヒャーにおけるサステナビリティ

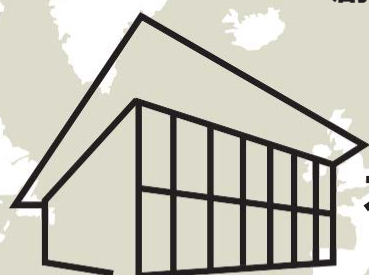
ファミリー経営の企業として、長期的な思考は私たちの企業としてのアイデンティティの一部です。このことは、将来の世代に対する責任を引き受けるという願望と本質的に結びついていると考えています。このような理解が、ケルヒャーの企業経営と将来の発展を特徴づけており、これらはいずれも私たちのサステナビリティ戦略2025によって推進されています。この戦略により、私たちは、気候保護、資源効率、社会的付加価値の向上に向けた明確な目標や規定をまとめることができます。

ファミリー経営



1935

創立



本社

ドイツ、ウィンネンデン

150

80以上の国における
子会社・関連会社の数

50,000

全ての国での
サービス拠点数



14,400

従業員数

全世界で



30.92

億ユーロの売上 (2021)

会社概要

ケルヒヤーは、清掃技術において世界をリードする企業です。1935年に設立され、今日に至るまでシュトゥットガルト近郊ウィンネンデンに本社を置く家族経営の会社です。ケルヒヤーグループは、ヨーロッパ、アメリカ、アジア、オセアニア、アフリカなどの80カ国以上に150の会社を有しています。ケルヒヤーグループの従業員数は14,400人以上です。また世界各地にある5万ヶ所のサービス拠点が、包括的な顧客サービスを保証しています。2021年、ケルヒヤーの売上高は30億9,200万ユーロとなり、史上最高を記録しました。

ビジネスモデル

ケルヒヤーは、清掃とメンテナンスのための機器、機械、システムの開発、製造、販売を行っています。高圧洗浄のパイオニアとして、ケルヒヤーは輸送車両、建物、表面の洗浄、また液体の洗浄と配送の基本的な要件を世界中でカバーする洗浄システムのメーカーです。ケルヒヤーの製品ラインナップは、高圧洗浄機、超高压洗浄機、さまざまな用途のバキュームクリーナー、スチームクリーナー、スーパー、床洗浄機、セルフサービス技術を含む車両洗浄システム、特殊用途の産業用洗浄技術、洗浄剤、飲料水や再生水処理用システム、ウォーターディスペンサー、空気清浄機、車両・工程管理用ソフトウェア、ポンプ・散水装置、ガーデンメンテナンス用機械など、多岐にわたっています。完璧にマッチした製品とアクセサリーは、特定のターゲットグループに合わせた包括的なアドバイスとサービスとともに提供されます。

経営体制

ケルヒヤーの取締役会は、5人のメンバーで構成されています。そのメンバーは以下の通りです。ハートムート・イエナー（最高経営責任者兼会長）、クリスチャン・マイ（副会長兼販売・マーケティング・サービス担当取締役）、ディーター・グライヤー（最高執行責任者）、シュテファン・パツケ（最高財務責任者）マイケル・ハウザーマン（最高特別事業責任者）です。彼らは、会社の更なる戦略的発展だけでなく、ケルヒヤーのサステナビリティ要件にも責任を負っています。取締役会のメンバーは、会社の最高統治機関である監査役会の決定によってのみ任命されます。委員長はヨハネス・ケルヒヤーが務めています。また、取締役会に対して会社の経営に関する助言を行うとともに、承認対象となるグループとしてのアクションに関する決定を行うことも任務としています。

価値に基づく企業展開

ケルヒヤーは、国際企業として、またグローバルな企業市民としての責任を自覚しています。これは、経済的側面、環境的側面、社会的側面を同等に発展させるという私たちの願望に反映されています。私たちの行動は、明確に定義された価値観に導かれており、この価値観が私たちの企業理念を形成しています。

行動規範とコンプライアンス

私たちの行動規範は、日々の業務に不可欠な行動原則を定めたものです。これらは、国際労働機関（ILO）、ビジネス・ソーシャル・コンプライアンス・イニシアチブ（BSCI）、国連グローバル・コンパクトなどの国際的な基準に基づいています。この原則には、人権の尊重、平等な権利、差別の撤廃、公正な事業慣行、腐敗防止、環境保護、製品安全、データ保護が含まれます。また、サプライヤーに対しても、これらの原則を遵守することを求めています。この行動規範は、ケルヒヤーの取締役会によって承認され、イントラネット、ウェブサイト、サプライヤープラットフォームで閲覧することができます。

行動規範に加え、ケルヒヤーの各部門には、情報セキュリティやインテグリティなどに関する無数の国際的なガイドラインやポリシーが存在します。コーポレート・ガバナンス&コンプライアンス部門は、ガイドラインやポリシーの調整と公表に責任を負っています。そして、管理職は、適用されるガイドラインやポリシーを従業員に指導する責任を負っています。また、行動規範に違反した場合、あるいはその他の懸念がある場合の最初の連絡先となります。具体的な問題については、それぞれのガイドラインやポリシーを担当する部署が対応します。さらに、ケルヒヤーのコンプライアンス部門は、電子メールや電話などの通常のチャネルを通じて、すべての質問や通知に対応することができます。内部告発は、グローバルウェブサイトやイントラネットからアクセスできる特別なソフトウェアで容易に行うことができます。

また、誠実な行動を確保するため、すべての拠点にローカル・コンプライアンス・マネージャーを配置し、定期的なトレーニングを行っています。

データ保護

また、個人情報の保護も企業の責任です。そのためにデータ保護マネジメントシステムを構築し、既存の情報セキュリティのマネジメントシステムと統合しました。2021年からは、このシステムを通じてデータ対象者からの要請にも対応できるようになりました。すべての企業に対して、個人データの処理に関する重要な原則をデータプライバシーポリシーとして公表しています。この方針は、当社の企業理念、企業戦略、およびケルヒヤーの価値観と一致しています。個人情報の取り扱い、および個人情報保護違反の場合の行動はすべて、このデータ・プライバシー・ポリシーによって規定されており、このポリシーは、Alfred Kärcher SE & Co. KGの全従業員に適用されます。一般データ保護規則（GDPR）に該当する企業では、現地で適用されるデータ・プライバシー・ポリシーが実施されています。また、データ保護と情報セキュリティについて従業員を教育するために、年1回のオンライントレーニングが義務付けられています。また、データ保護に関する年次報告書により、取締役会のメンバーの関与は確約されています。

税務

ケルヒヤーは、税務当局と建設的かつ協力的で信頼できる態度で協力し、オープンで透明性のあるコミュニケーションを維持しています。国内外のすべての税法を遵守することは、ケルヒヤーにとって当然のことです。法的義務（国別報告）を果たすために、すべてのグループ会社の税務情報を連邦税務局に送付しています。この情報は、独自に監査したグループの連結財務諸表に基づいています。

当社の税務方針は、グループ全体の納税義務を確実に果たすためのタスク、責任、プロセスを定義しています。また、税務コンプライアンス管理システムも導入しており、継続的に開発を進めています。

ステークホルダーとのかかわり

私たちは、会社のさらなる発展のために、一貫して関係各位との連携を図っています。社外からの視点は、私たちに新しい展望をもたらし、経済的、社会的、環境的な利益を同等に考慮するのに役立ちます。そのため、私たちは多くの利益団体と積極的に対話することを奨励しています。その基礎として、私たちは最も重要なステークホルダーを特定し、そのニーズに焦点を当てました。私たちは、お客様、従業員、経営者、サプライヤー、そして政治や社会のニーズに焦点を当て、最も重要なステークホルダー・グループを特定しました。これらすべてのグループに対して、コミュニケーションを促進し、その期待に応えるための具体的なチャネルと規定を設けました。

また、協会やイニシアティブのメンバーとして、対話を促進しています。

従業員からのサステナブルなアイデア

私たちのサステナビリティ戦略は、徹底した対話の結果生み出されたものです。例えば、2019年にブラジル、中国、ドイツの拠点で開催された3回のワークショップでは、従業員が積極的に戦略の策定に参加しました。

これらのイベントで400件以上のアイデアを集め、従業員が特に重視しているのは、製品や生産における持続可能な素材の使用、責任あるサプライチェーン、会社による社会貢献の強化であることがわかりました。さらに、私たちの戦略開発では、お客様の視点も考慮に入れています。

また、アメリカ、ドイツ、フランス、ブラジル、日本での代表的な顧客調査も行っています。

会員となっている協会、委員会、組合など（一部）：

AACEM
American Association of Cleaning Equipment
Manufacturers

AISE
International Association for Soaps, Detergents
and Maintenance Products

B.A.U.M. e.V.
Bundesdeutscher Arbeitskreis
für Umweltbewusstes
Management
(German Working Group for
Environmentally Conscious Management)
BCM
Berufsverband der Compliance Manager
(German Organisation of Compliance
Managers)

CETA
Cleaning Equipment Trade Association

EGMF
European Garden Machinery
Industry Federation

EPTA
European Power Tool
Association
EUnited
European Engineering Industries
Association
EuropElectro
ZVEI representation in
China

**Fraunhofer Institute for Manufacturing
Engineering and Automation IPA, industry
working group** “Global Environmental
Compliance” expert forum

**global verantwortlich BW
IHK
Stuttgart
ISSA**

International Social Security
Association

IVG
Industrieverband Garten
(Industrial Association
Garden)

Klimabündnis BW
(BW Climate
Alliance)
Markenverband e.V.

SBTi
Science Based Targets initiative, since
03/2022
UN Global Compact

Unternehmensnetzwerk Klimaschutz
IHK; since 04/2022

VDMA e.V.
Verband Deutscher Maschinen und Anlagenbau
(German Mechanical Engineering Industry
Association)

ZVEI e.V.
Verband der Elektro und Digitalindustrie
(German Electro and Digital Industry
Association)

参加する標準化団体（一部）：

CEN
European Committee for
Standardisation
CENELEC
European Committee for
Electrotechnical Standardisation

CSA
Canadian Standards
Association
DIN
Deutsches Institut für Normung
(German Institute for
Standardisation)

DKE
Deutsche Kommission Elektrotechnik
(German Commission for
Electrotechnical, Electronic &
Information Technologies)

IEC
International Electrotechnical
Commission

UL
Underwriters
Laboratories

社会貢献活動（一部）：

Bachakademie

**Bürgerstiftung
Winnenden
Clowns mit Herz**

Europa Minigärtner

Global Nature Fund

One Earth – One Ocean

Paulinenpflege Winnenden

Samariterstift Obersontheim

SOS-Kinderdorf e.V.

Unimog-Museum Gaggenau

サステナビリティ・マネジメント

ケルヒャーの成功は、長期的な戦略によって支えられています。サステナビリティに対する私たちのコミットメントも、この理解に基づき形成されています。2014年以降、ケルヒャーは全社的に「サステナビリティ・エクセレンス」戦略を推進し、サステナビリティのあらゆる側面を総合的に考慮し、具体的な方策と目標を用いて実践しています。

2020年、「サステナビリティ・エクセレンス」戦略が成功裏に終了し、「サステナビリティ戦略2025」に移行しました。これは、「ゼロ・エミッション」、「リデュース、リユース、リサイクル」、「ソーシャルヒーロー」の3つの中心的なイニシアティブに基づいています。「サステナビリティ戦略2025」は、当社の企業戦略の重要な一翼を担っています。

サステナビリティ&クオリティ・プリンシプル部門は、サステナビリティ戦略の舵取りをする責任を担っています。この部門は、ケルヒャーの戦略的サステナビリティ活動を調整し、目標達成を継続的に監視し、すべての透明性要件への準拠に責任を負っています。また、購買、人事、育成、製品管理、営業、コミュニケーション、コーポレートシチズンシップなど、幅広い部門と密接にコミュニケーションをとっています。サステナビリティはすべての人の責任である」という私たちのアプローチに基づき、すべてのサステナビリティ活動は全社的に実施されています。



ケルヒャーがドイツ・サステナビリティ・アワードを受賞

ケルヒャーは、2021年12月にドイツ・サステナビリティアワード2022の「トランスフォーメーション分野-資源」部門を受賞しました。審査員団は、サステナビリティの分野における私たちの全面的な取り組みと、一貫した模範的かつ革新的な開発を評価し、特に「リデュース、リユース、リサイクル」イニシアティブに焦点を当てました。



ケルヒヤー・サステナビリティ戦略2025

2025年までの当社のサステナビリティ・コミットメントは、3つのイニシアティブを中心に据えています。気候変動に左右されない生産から原材料のリサイクル、プラスチック包装の削減、より持続可能な設計のグローバル・サプライチェーン、そして社会貢献のさらなる発展まで、私たちが今後数年間で実施したい明確な目標と対策が含まれているのです。

ケルヒヤーの新しいサステナビリティ戦略2025は、国連の持続可能な開発目標（SDGs）を指針としています。私たち企業にとって、SDGsは、私たち自身の行動を地球規模の課題の解決につなげる、良いフレームワークとなります。私たちは3つの取り組みを通じて、合計13のSDGsに具体的な貢献をしています。これは、国際的に認められているSDGsコンパスの手法に基づき、包括的に分析した結果です。



ゼロ・エミッション

2021年以来…

- ケルヒヤーの世界中の工場がカーボン・ニュートラルになっています。
- ドイツ国内、およびドイツから国外への出張もカーボン・ニュートラルになっています。

2025年までに…

- ケルヒヤーはスコープ1、スコープ2の実質排出量を2020年比で21%削減します。2030年には、さらに21%（合計で42%）の削減を果たします。
- スコープ3の排出量の管理システムを創設し、製品のカーボン・フットプリントを明確にします。

現状

7か国、18の工場がカーボン・ニュートラル。

カーボン・オフセット活動によって180,000ヘクタールの森林を保護できました。



リデュース、リユース、リサイクル

2020年以来…

- 私たちは海洋プラスチックごみの削減を支持してきました。

2025年までに…

- 私たちはすべての製品の包装をサステナブルに最適化します。
- 一部の家庭用、また業務用機器の製造に使用される再生プラスチックを50%にまで引き上げます。
- プラスチック廃棄物を出さないパイロット生産の確立を目指します。
- 新しいビジネスモデルにおいて、サステナビリティは不可欠な要素となります。

現状

2021年、のべ40kmのビーチから1.5トンのごみを回収しました。

よりサステナブルな包装材の導入が37%の製品に導入されました。



ソーシャルヒーロー

2025年までに…

- 私たちの社会貢献を価値の保存への注力とします。
- サステナビリティに関するサプライヤーのリスク管理体制を積極的に構築します。

現状

全プロジェクトの68%が価値保存に注力しています。

2021年、文化スポンサーとして14のモニュメントや建物を清掃しました。



マテリアリティ評価

2021年、私たちはマテリアリティ評価を実施しました。この評価の目的は、主要な報告ポイントを導き出すために、ケルヒヤーにとって重要なサステナビリティ能力の項目（トピック）を特定し、評価することでした。そのために、まず、ステークホルダーに関する事項や競合他社の分析、さらには国連グローバル・コンパクトやグローバル・レポーティング・イニシアティブ（GRI）などの国際基準を含むトピックのリストを作成しました。そして、選定したトピックについて、各部門の代表者を集めた社内ワークショップで、2つの観点から評価を行いました。

アウトサイドイン：サステナビリティの課題は、どの程度、ケルヒヤーの業績、経営成績、ポジションに影響を与えるのか？
 インサイドアウト：ケルヒヤーの事業活動は、経済、環境、社会にどのようなプラスまたはマイナスの影響を及ぼしているか？

この評価では、気候変動対策やエネルギー管理、環境に配慮した製品、生産における材料や資源の効率化などの環境問題が特に重要であることが示されました。しかし、公正な労働条件やサプライチェーンにおける社会的・環境的な立場も非常に重要であることがわかりました。したがって、重要性評価の結果は、サステナビリティという点で、私たちの戦略的な焦点と一致しています。



サプライチェーン

ケルヒャーは製造する会社として、主に機械部品と電子部品を購入しています。ケルヒャーの契約締結に関するすべての決定は、個々の商品の種類と原産地が明確に定義された商品グループ戦略に基づいています。私たちは、長期的かつ可能な限り地域的な購買構造に重点を置いています。そのため、近年はサプライチェーンを短縮し、主に地域のサプライヤーを使って生産拠点に供給することができるようになりました。例えば、2021年には、Alfred Kärcher SE & Co. KGは、ほぼ4分の3の商品を国内で調達するようになりました。

サステナブルな購買

購買に関しては、川上のサプライチェーンの持続可能性が重要な焦点となります。このため、サプライヤーに社会・環境基準の遵守を義務づけるとともに、リスクの詳細な分析に取り組んでいます。

「ソーシャルヒーロー」イニシアティブの一環として、私たちは2025年までにサステナビリティのための積極的なサプライヤー・リスク管理システムを確立することを約束しました。これは、サプライヤーとの取引関係やサプライヤー自身の活動が、社会と環境に与える影響を体系的に評価するための措置です。

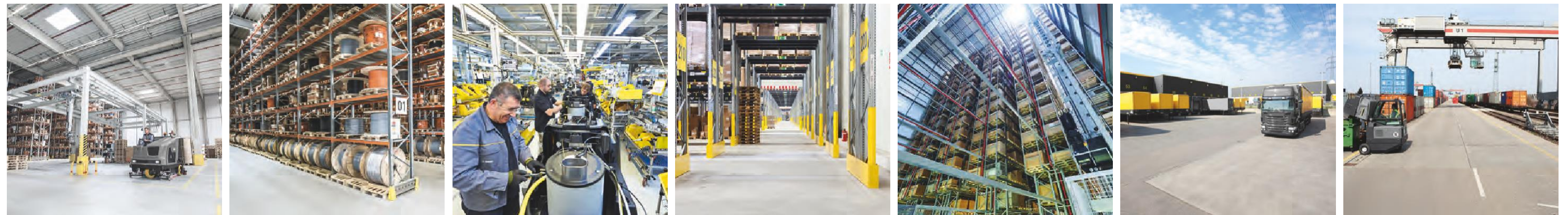
これは、サプライチェーンにおける企業のデューデリジェンスに対する将来の規制要件の一つを、私たちがすでに遵守していることを意味します。また、この取り組みの一環として、2025年までに材料調達先を40%削減することを目標としており、地域調達の支援、ひいては信頼性の高いサステナブルなサプライチェーンの実現を目指しています。

環境・社会規範の遵守は、新しいサプライヤーを選定する際にも、既存の取引関係においても、すでに重要な判断基準となっています。

例えば、私たちはすでにAIベースのソフトウェアを使用して、契約締結前にサプライヤーに社会的・環境的リスクがないかどうかをチェックしていますが、これを継続的に拡大していきます。また、委託前に、重要なサステナビリティ原則を含む当社の行動規範と、材料に関するケルヒャーの社内基準（KN 050.032）に準拠することをサプライヤーに義務付けています。

私たちは、業務上の関係の中で、サステナビリティの基準への準拠を継続的に監視しています。私たちのサプライヤーは、定期的にサステナビリティのパフォーマンスに関する情報を提供することが義務付けられています。

この自己評価に加えて、独立した機関による評価も行っています。この監査では、品質基準だけでなく、社会・環境・労働安全基準の遵守状況も確認しています。2021年には、上記の点を考慮した50以上のサプライヤー監査が実施されました。





02

生産における環境保護

私たちの清掃機器は、原材料、エネルギー、水などの資源を大切に使うことから生まれます。その基礎となるのが、環境・気候変動対策を全面的にサポートする生産プロセスです。

私たちの主な取り組みは、プラスチックの使用量を減らすことです。「リデュース、リユース、リサイクル」「ゼロ・エミッション」の取り組みにより、プラスチック使用量の削減、再生可能エネルギーの使用促進、CO2排出量の削減を進めています。

気候変動対策

地球温暖化との闘いは、現代における最も重要な課題の一つです。国も企業もそれぞれの役割を果たすことが義務付けられています。ケルヒャーはその責任を自覚し、パリ気候条約の目的に賛同しています。この問題との関連性を強調するために、私たちは「気候変動対策」を「サステナビリティ戦略2025」の3つの柱の1つとしました。「ゼロ・エミッション」対策の一環として、ケルヒャーのエネルギー消費量、ひいてはCO2排出量を削減するための明確なタイムテーブルを推進しています。

私たちの目標

ここでは、私たちの生産拠点に焦点を当てます。2025年までに、生産におけるCO2排出量を2020年比で21%、2030年までに42%削減したいと考えています。温室効果ガスプロトコルに基づき、これは私たちの製造現場における私たち自身の活動によって発生する直接排出（スコープ1）と、エネルギーの購入による間接排出（スコープ2）に関係しています。

この目標の科学的根拠を確立するため、2022年に「科学的根拠に基づく目標」イニシアティブ（SBTi）による検証を受ける予定です。また、SBTiに参加することで、スコープ3排出量の記録を拡大し、その削減目標を展望することになっています。

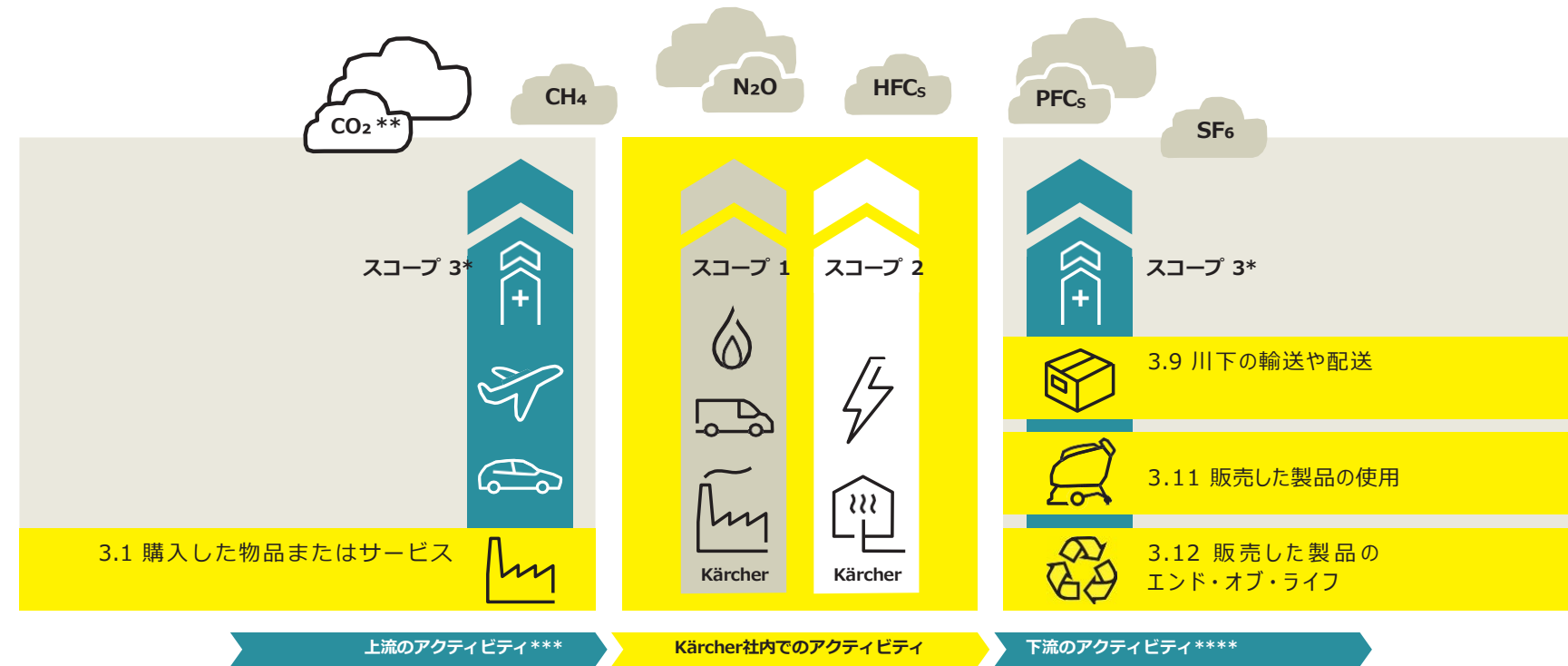
サステナビリティ&クオリティ・プリンシプル部門は、全社的な気候変動対策目標の策定と実施に責任を負っています。この部門には、ISO 14001に基づく環境マネジメントとISO 50001に基づくエネルギーマネジメントを担当するグローバルオフィサーも含まれています。すべてのエネルギー効率化対策は、各拠点のエネルギー担当者が調整しています。

スコープから見た排出

温室効果ガスプロトコルに基づき、ケルヒャーの温室効果ガス（GHG）排出量とその3つのスコープを以下の図に示しています。私たちの活動の結果、GHGの排出は、スコープ1に分類される、定置および移動時の燃料の燃焼から生み出されています。

スコープ2とは、電気や地域暖房の購入に伴う間接的な温室効果ガス排出量のことです。スコープ3は、上流・下流を含むバリューチェーンで発生するすべての間接的な排出量を含んでいます。最後に、すべての温室効果ガスをCO2換算でキログラムに換算し、数値で記載しています。

ケルヒャーは現在、スコープ1、スコープ2、そして黄色で示した4つのスコープ3排出量（温室効果ガスプロトコルのカテゴリ3.1、3.9、3.11、3.12）に着目しています。これらのカテゴリは、当社の製品ポートフォリオ全体のプロダクト・カーボンフットプリントを計算する上で重要です。私たちは、フットプリント全体を削減するために、「科学的根拠に基づく目標設定（SBTi）」の基準に沿った削減目標を定義するよう取り組んでいます。



これは模式的な図解であり、実際の関係を示すものではない。したがって、矢印の大きさを数値として理解すべきではない。

* GHGプロトコルによるスコープ3のカテゴリ。
 ** 最初の焦点はCO2排出量の分析です。さらに、ケルヒャーにとってすべての温室効果ガスとの関連性を順次確認しています。
 *** 固定資産のレンタル・リース、従業員の通勤、出張、事業活動で発生する廃棄物、輸送・流通、燃料・エネルギー関連活動、資本財。
 **** 投資、フランチャイズ、レンタルまたはリースした固定資産、販売した製品の加工も含む。

エネルギー消費量とCO₂ 排出量

私たちは、世界中のケルヒヤーの工場で、四半期ごとにエネルギー消費量と排出量に関するデータを記録しています。これは、私たちの目標を監視し、CO₂ を節約するための追加の可能性を特定できることを意味します。CO₂排出量を削減する最も重要な方法は、エネルギー消費量を削減することです。ヨーロッパ内のすべての工場は、ISO規格50001に準拠した認定エネルギーマネジメントシステムを有しています。工場に対する責任、プロセス記述、文書化義務などをガイドラインにまとめました。このガイドラインでは、再生可能エネルギーの使用を増やし、エネルギー効率を継続的に向上させるという基本的な目標も掲げられています。近年、エネルギー収支を大幅に改善することができましたが、これは主に工場や建物の効率化、LED照明の導入によるものです。ドイツの拠点だけでも、さまざまな対策により、2021年には1,700MWhを超えるエネルギーを削減することができました。2021年の総エネルギー消費量は21,287.51MWh (811.66TJ) で、主に電気や暖房の購入、天然ガスの使用によるものでした。エネルギー強度、すなわち売上高100万ユーロあたりのエネルギー消費量は、報告年度には0.26TJであり、前年度に比べて大幅に削減されました。

私たちの工場で使用されるエネルギーは、今後ますます再生可能なエネルギー源から得られるようになるはずですが、私たちのグローバルな生産ネットワークで使用される割合は、現在すでに33%に達しています。私たちは、再生可能エネルギーからより多くの電力を購入し、あるいは自家発電することで、将来的にこの割合を増やしていくつもりです。すでに多くの工場で太陽光発電システムを導入しています。イタリアのキステッロにある当社最大の設備では、11,500平方メートルの面積から年間36万kWhの電力を生み出しています。

TJにおけるエネルギー消費量	2020	2021
合計	986.54	811.66
一次エネルギー消費	711.64	514.91
天然ガス	102.30	108.13
灯油	18.18	15.64
軽油	8.02	16.56
ガソリン	1.31	0.38
液化ガス(LPG)	581.45	374.14
ブタン、プロパン、エタン	0.38	0.07
再生エネルギー消費量	256.90	296.75
外部購入電力	229.47	264.95
社内創出電力	8.49	11.40
地域暖房	18.93	20.40
販売額100万€あたりのエネルギー濃度	0.36	0.26

温室効果ガス排出量 kg/CO ₂	2020	2021
合計	35,499,334	28,927,347
スコープ1	7,591,376	8,222,586
天然ガス	5,717,410	6,043,099
灯油	1,250,782	1,076,118
軽油	526,617	1,074,496
ガソリン	93,544	26,978
液化ガス (LPG)	2,914	1,875
ブタン、プロパン、エタン	109	20
スコープ 2	27,907,958	20,704,761
外部購入電力	27,900,438	
社内創出電力	20,696,658	0
地域暖房	7,520	8,103
販売額100万€あたりの温室効果ガス濃度	12.7	9.4

GEMIS 4.9 (統合システム用グローバル排出量モデル) に準拠した換算係数。

自社生産と再生可能エネルギーの購入により、近年、CO₂排出量を大幅に削減することができました。2021年、生産に関わるCO₂排出量の絶対値は約28,927トン(2020年：35,499トン)でした。これは、前年度比で18%以上の削減ができたことを意味します。これには、さまざまな拠点でグリーンエネルギーに切り替えたことが重要な役割を果たしました。販売額100万ユーロあたりの相対的なCO₂排出量は、9.4トンCO₂(2020年：12.7トンCO₂)でした。また、本報告年度において初めて、パートナー企業であるファースト・クライメート社を通じて、残りの生産関連排出量を完全にオフセットしました。これにより、2021年以降、世界20カ所のケルヒヤーの生産・物流拠点は、すべてCO₂ニュートラル生産で運営されていることとなります。補償金は、ブラジルの森林保護プロジェクトに投入され、すでに約18万ヘクタールの熱帯雨林の保護が可能になりました。これらは、WWFが支援する厳格な「Verified Carbon Standard (VCS)」と「Gold Standard」に基づいています。

その他の間接排出

ケルヒヤーのカーボン・フットプリントの大部分は、上流および下流での活動(スコープ3)に起因しています。これには、例えば、個々の部品の生産、お客様による製品の使用、物流、出張などが含まれます。スコープ3の排出量は、私たちの直接的な影響力の及ぶ範囲外にあることが多く、対応する排出量データの取得や品質の確保がより困難になっています。ケルヒヤーでは、2025年までにスコープ3排出量の記録を大幅に拡大することを約束しています。これは、バーデンブルク気候同盟のメンバーとして、中心的な目標となっています。

私たちはすでに、出張など個々のScope3排出量を詳細に記録し、その削減に取り組んでいます。例えば、デジタル会議に置き換えることで、出張の回避を進めています。また、2021年以降、ドイツ拠点が予約した海外渡航とレンタカーをフルオフセットしており、カーボン・ニュートラルとなっています。

私たちは、さらに保有する電気自動車の数を増やしています。2021年には、走行距離の10%に電気自動車を使用されました(2020年：6%)。私たちは、輸送ルートの継続的な最適化により、輸送ロジスティクスで発生する排出量をすでに削減しています。地産地消のアプローチに基づき、ケルヒヤーの世界各地の工場では、すでに生産拠点から1,000km以内にある地域のサプライヤーから購入量の75%を調達しています。このように、私たちは輸送ルートを減らし、CO₂ 排出量を最小限に抑えています。また、製品の物流を道路から鉄道に移行する動きも活発化しています。

資源効率と水の管理

私たちは、「ゼロ・エミッション」と「リデュース、リユース、リサイクル」の取り組みにより、よりクリーンな生産の実現を目指しています。ケルヒャーでは、環境に配慮した生産、水、排水、原材料などの資源を大切に扱うことを意味すると理解しています。私たちは、この要求を世界中のケルヒャーの工場で実践しています。

環境マネジメント

私たちのマネジメントは、水と排水、そして材料と廃棄物を扱うためのガイドラインに基づいています。このガイドラインには、明確な要件、責任、プロセスの説明、目標が含まれており、材料の効率を高め、水の消費量を削減し、廃棄物やリサイクル可能な材料を適切に収集、保管、記録し、それらが正しくリサイクルされることを保証するものです。

私たちのグローバルネットワークである環境担当者は、さまざまな拠点での実施に責任を負っています。

私たちのすべての工場は、ISO規格14001に準拠した環境マネジメント・システムの認証を受けています。私たちは、標準化された手順で、この規格やその他の環境法・から基準から生じる要求事項を少なくとも年に一度はチェックしています。また、適用範囲が変更された場合は、追加でチェックを行います。全体として、私たちは10,000以上の規制や義務を遵守しています。

材料の使用と廃棄物

ケルヒャーは、生産における高い資源効率により、効率性と環境保護を両立させています。これは、コスト削減だけでなく、製品の環境フットプリントにもプラスの効果をもたらします。私たちは、サプライチェーンから生産、製品、包装に至るまで、この問題を全体的にとらえています。

ケルヒャーの資源管理は、一次プラスチックの使用を避け、プラスチック廃棄物を削減することに重点を置いています。そこで私たちは、2025年までにウィンネンデンの本社で、現地で調達する製品に関して、プラスチック廃棄物をゼロにするパイロット生産を行うことを目標に掲げました（右の別欄をご参照ください）。

私たちは、主に生産工程での材料効率の向上に取り組んでいます。このためには、より効率的な手順の使用などの技術的な選択肢と、個々のリサイクル可能な材料の分別の改善などの組織的なソリューションを追求しています。同時に、可能な限り材料の再利用を可能にするクローズドループの材料サイクルの確立に取り組んでいます。そのために、社内で可能な限り多くのプラスチックを再利用しています。例えば、ルーマニアの工場では、生産時の端材を利用して新たにプラスチック粒を生産し、それを物流用の輸送箱の材料として使用するなど、さまざまな取り組みを行っています。

全世界で製造に使われている材料	2020	2021
金属 (kg)	57,126,000	66,660,000
プラスチック粒子 (kg)	40,800,000	54,738,000
うち、リサイクルされたもの (kg)*	5,608,000	1,440,000
パレット (個数)	644,973	1,097,486

* 2021年にリサイクル品目の定義を変更;
その結果、数値は単純比較ができないものとなっています。

廃棄物ゼロをめざすパイロット生産

ウィンネンデンの工場は、プラスチック廃棄物ゼロの生産の模範となることをめざしています。パイロット・プロジェクトの一環として、2025年までに地元のサプライヤーから調達した商品のプラスチック包装を一切不要にすることを目標としています。

すでに、社内の物資輸送でもこの取り組みを進めています。ウィンネンデンでは、組み立てライン間の輸送に、ラップではなくマルチボックスで輸送しています。これにより、年間3,000kgのプラスチックフィルムを節約することができます。

リサイクル材のフローと廃棄物を記録するために、長年にわたり拡張・最適化されてきたデータ収集システムを使用しています。現在、各拠点において、金属、紙、段ボール、プラスチック、木材、有害廃棄物、リサイクル廃棄物、雑多のカテゴリに対応するデータを四半期ごとに算出しています。これは、クラウドベースのソフトウェアソリューションを使って行っています。ケルヒャーでは、リサイクル廃棄物を、物質的にリサイクルされるか、エネルギー源として再利用されるすべての廃棄物として分類しています。

廃棄物に関しては、一旦は減少したものの、2020年には再び増加を記録しました。これは、洗浄装置のテストベンチを解体した際に発生したスクラップ金属の比率が高いことなどが原因です。また、コロナウイルスの大流行時に実施した対策により、使い捨ての衛生用品などの廃棄物量が前年度より増加しました。廃棄物の処理については、厳選した廃棄物管理会社と提携しています。2年に1度、自己評価を行い、必要に応じて現地確認を行います。

上水と廃水

ケルヒャーは、塗装工場や製品試験の一部など、多くの生産工程で水を使用しています。私たちは、水の消費量や排水量を最小限に抑え、排水に含まれる有害物質を回避・削減するための取り組みを続けています。環境担当者は、各事業所でそれぞれの改善策を調整しています。

生産に関わる取水量は、四半期ごとに請求書と検針票をもとに各サイトで集計しています。取水量については、地下水と公共の事業社からの水を区別しています。私たちの目標は、年々必要な水の量を減らしていくことです。一部の事業所では、水のリサイクルシステムを導入しています。これは、取水する真水がより少ないことを意味します。このため、排水量は取水量と同じになります。

私たちの工場では、水循環システムの導入が進んでおり、真水の取水量を減らしています。例えば、ブラジルの工場では、雨水の80%を回収し、研究所で必要な水量をすべてまかなっています。また、イタリアのレッジョ・エミリア工場では、従来は排水路に流れていた実験台からの水を、技術的な工夫によってほぼ全量リサイクルできるようになりました。その結果、公共の水道網から水を引く必要がなくなり、この工場での水の消費量は2021年に57%減少しました。

排水が発生する事業所では、排水を処理して放流します。この排水は、油分離器などの排水処理装置で清掃された後でなければ排水路に流すことができません。安全性が証明された排水のみが、この対象から除外されます。排水の流れを定期的に検査し、有害物質が含まれていないことを確認する必要があります。また、廃水処理装置や排水設備は最新のものでなければなりません。

革新的な廃液処理

スルツドルフの自社洗浄剤製造工場に2021年に設置予定の新しい真空蒸着プラントは、そこで処分される廃棄物の量を最大95%削減します。真空蒸着濃縮液は回収され、水性洗浄液として廃棄されます。この新プラントのおかげで、特別廃棄物として処理されるのはごく一部だけとなりました。残りの蒸留液は、通常の廃水として処理することができます。

廃棄物とリサイクル	2020	2021
有害でない廃棄物 (t)	9,221.68	12,483.33
金属	1,401.05	2,602.09
木材	1,888.67	2,239.01
紙、段ボール	3,567.90	4,830.38
プラスチック	1,264.70	1,574.23
その他非有害廃棄物	1,099.36	1,237.62
有害廃棄物 (t)	416.21	424.36
リサイクルされた廃棄物の割合 (%)	78.4	77.9

取水量 m³	2020	2021
取水量	328,767	321,749
地下水と地表水	0	0
自治体の水道	328,767	321,749



03

革新的で 環境に配慮した製品

ケルヒャーの品質、革新性、サステナビリティの高い基準は、製品に集約されています。消費者は効率的な清掃結果を得るだけでなく、環境に対する付加価値も得ることができます。環境に優しい洗浄剤から、節水、省エネ、低排出ガスの機械まで、ケルヒャーの製品ラインナップは幅広く、製品設計の焦点であるリサイクル素材を使用した製品も増えてきています。

製品の品質と安全性

ケルヒャーの広範囲にわたる品質管理は、製品の安全性、高品質、耐久性を保証するために役立っています。ケルヒャーの製品開発品質部門と知的財産・規制部門がこれを担っています。後者は、すべての機械が対応する安全規格を満たしていることを保証します。

すべての工程で品質と安全性を追求

製品の開発段階から、製品の品質と安全性が重要な鍵を握っています。各製品の具体的な要件は、個別の要件・性能仕様書にまとめられています。4つのテストポイントにより、開発段階から市場の成熟に至るまで、製品の品質を保証しています。また、製品が消費者の手に渡った後も、保証管理などを通じて継続的に品質を監視しています。製品が安全でないことが報告された場合、オペレーション品質部門が標準的なプロセスを実施します。これはリスクアセスメントから始まり、必要であれば、安全性リスクを排除するための対応策につながります。

また、製品の安全性と品質は、多くのサプライヤーとの信頼関係から生まれるものです。永続的に高い品質を確保するために、私たちは主に予防的な手段や方法を用いています。私たちは、早い段階からパートナーをプロセスに巻き込むことで、新製品開発プロジェクトのスタート時から、お客様の要望に対する理解を共有することを目指しています。そして、製品のライフサイクル全体を通じて、継続的なフィードバックのループを可能にします。

すべての製品の一般的な安全性評価には、健康への潜在的な影響の分析が含まれます。これに合わせて、私たちは、基本的な健康と安全の要件への準拠を確実にするために、私たちに適用される国内、地域、国際的な製品規格を定期的にチェックしています。これには、例えば、国際電気標準会議（IEC）の電気技術規格が含まれます。2021年には、ケルヒャーに関連する27の製品規格のうち10規格が改定され、私たちはこの影響を直接受けましたが、すでに対応する調整を行い、実施しました。

洗剤とケア剤への注力

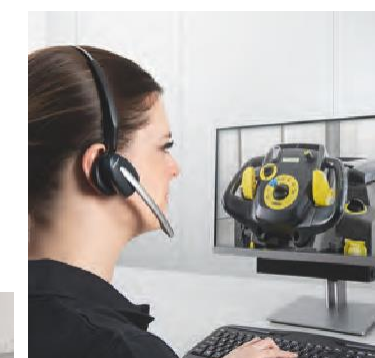
私たちの洗剤とケア剤に関しては、特に消費者に使用される場合、健康と安全が重要視されます。そのため、私たちのすべての洗剤には、ラベルと安全データシートに危険物マークが表示されています。安全データシートは、当社のウェブサイトでご覧いただけます。

同時に、私たちは、より環境にやさしく、より安全に使用できる製品を作り続けるよう努力しています。これは、欧州の清掃・洗剤業界の自主的な持続可能性イニシアティブである任意団体、国際石鹼・洗剤・メンテナンス製品協会（AISE）への加盟が物語っています。私たちは、清掃・衛生業界を、革新的で持続可能な方法で社会に貢献するためのロールモデルにするというビジョンを支持しています。また、化学物質安全性評価などの形で、安全面も審査の対象としています。

お客様との接点

私たちの品質基準には、顧客重視の姿勢も含まれています。それは、ケルヒャーにとって、私たちの製品とサービスに対するお客様の満足が最も重要であるからです。私たちは、購入前、購入中、そして購入後も、お客様に様々な方法で私たちとコンタクトをとっていただけるようになっています。

これは、各国のお客様の習慣に応じて、幅広いチャネルを使用しています。その中には、チャットやソーシャルメディア、ビデオ通話などのデジタルチャネルや自動化されたチャネルも含まれ、お客様に敷居の低いアクセスや迅速なサポートを提供できるようになりました。このようなお客様との対話から得られた知見は、品質管理に直接反映させています。



環境に配慮した画期的な製品 アイデア

2021年末時点で有効な特許は650件以上あり、ケルヒャーの革新的な強さは再び証明されました。私たちは常に、お客様のためにサステナブルなソリューションを開発するという願望と結びつけてきました。これは、個人使用目的、あるいは業務使用目的に限らず、また洗浄剤と洗浄機器の両方に当てはまります。資源効率などの側面は、私たちのイノベーション・マネジメントの本質的な部分なのです。

製品表示

私たちは、製品設計の段階から一貫して環境面に配慮しています。当社の製品群は、現在、EUのエネルギー表示に関する規制の影響を受けていませんが、資源効率とリサイクル性に優れた製品設計のための規制要件に適合しています。また、自社規格KN 050.032により、10年以上前から機械やサプライチェーンに含まれる有害成分の規制を行っており、例えば、多環芳香族炭化水素（PAH）の使用をより厳しく規制するなど、法的要件を超えた取り組みも行っています。

節水・節電・低排出ガス清掃機器

私たちは、製品が最小限の資源でその役割を果たせるように開発しています。高圧洗浄機は、高い清掃性能により、庭のホースを使った作業と比較して約80%の節水が可能です。また、庭に設置するポンプは、雨水を家の周りの水やりに利用することができます。また、門型洗車機では、使用済みの水を最大85%回収して処理し、次の清掃に使用するリサイクルシステムもあります。

効率的な水処理に加え、私たちの機械は低排出ガス設計であることも特徴です。排出物とは、温室効果ガスや粉塵、運転音などを指します。特に室内では、ユーザーが機械に直接触れて作業するため、可能な限り排出ガスを減らすか、完全に避けることが重要です。例えば、掃除機では、吸い込まれたホコリを確実に捕らえ、機械から再び放出しないことが特に重要なのです。また、芝刈り機や電動のござりなど、他の分野では、当社のバッテリー駆動の機械はゼロエミッション、低騒音の製品です。

ケルヒャーの清掃機器 - 効率を追求した設計

資源効率、耐久性、リサイクル性など、ケルヒャーの洗浄機は様々な特徴を備えています。例えば、床洗浄機や温水高圧洗浄機には、特に効率的な清掃製品の証であるE United Cleaningラベルの認定を受けているものもあります。業務用機械の多くには、ケルヒャーのeco! efficiencyモードが搭載されています。このモードでは、アクティブな使用中であっても、すべての機能が自動的に最大限の効率になるように設定されます。その結果、エネルギー、水、洗浄剤の消費量を削減することができるのです。



環境に配慮した洗浄剤

スチームクリーナーや温水高圧洗浄機など、ケルヒャーの洗浄機の効率性のおかげで、多くの場合、化学薬品を使用せずに汚れを除去することができます。ケルヒャーでは、清掃効果をさらに高めるために、健康保護、環境適合性、効果を同等に考慮した幅広い洗浄剤を用意しています。

ケルヒャーは40年にわたり、独自の洗浄剤を開発してきました。2018年、数十年にわたって得られた知識は、ウィンネンデンに社内の洗浄剤専門センターを設立することで頂点に達しました。以来、製品のコンセプトからプロトタイプ、シリーズ生産に至るまで、開発プロセス全体をそこでコントロールしています。

開発にあたっては、一貫してサステナビリティに配慮しています。なぜなら、洗浄剤は単に汚れを落とすだけでなく、ユーザーや環境にとってリスクのないものであるべきだからです。そのため、私たちの環境仕様書では、製品、特に成分に関する明確な要求事項を定めています。ケルヒャーの洗浄剤は、一般的に生分解性が高く、その多くが天然物質を使用して製造されています。また、ケルヒャーの600種類以上の洗浄剤の中には、国際的なサステナブル環境認証の要件を満たすものが数多くあります。2012年以降、ケルヒャーは洗浄剤の生産者として、サステナブル・クリーニング・レーベルの認定を受けています。このレーベルは、サステナブルな行動をとる企業で製造された製品を識別するためのものです。

eco!perform業務用洗浄剤は、特に環境に配慮した製品です。このシリーズには、建物清掃用や洗車用の製品もあります。生分解性成分のみを使用し、リン酸塩、マイクロプラスチック、有害なハロゲン化炭化水素は一切使用していません。EUのEcolabelや北欧のSwan Ecolabelなど、国際的な環境認証を取得した製品です。

また、洗浄剤の包装をより環境に配慮したものにすることも大きな課題です。多くの洗浄剤には化学物質が含まれているため、環境面だけでなく、細かい安全規制も考慮しなければなりません。しかし、私たちは現在、洗浄剤の専門センターで、リサイクル材を使った容器の開発に力を入れています。

ケルヒャー・イノベーション・ラボ

ケルヒャーでは、従業員が創造性を発揮し、独自のアイデアを提供できるような場を提供しています。その中心となるのが「イノベーション・ラボ」で、定期的に社内で「イノベーション・チャレンジ」を公募しています。応募に成功した従業員は、一定期間、通常の業務から解放され、ラボチームのサポートとコーチングを受けながら、アイデアを実現することができます。その結果、新しいビジネスモデルや、キッチン用コンポスターのような抜本的な製品イノベーションが生まれるのです。私たち独自のシンクタンクから生まれたこの機械は、高度な技術を駆使して、生ゴミをわずか48時間で栄養豊富なコンポストに変えてしまいます。



資源を有効活用した製品・包装

私たちの製品におけるサステナビリティは、主に原材料の省資源化によって具現化されます。このため、私たちは、清掃機器や梱包材のリサイクル性を高め、リサイクル材の使用比率を高める取り組みも行っています。私たちは、循環型経済の原則、すなわち材料の回避、削減、再利用にますます重点を置くようになってきています。

海洋プラスチックごみとの闘い

2020年以降、環境保護団体One Earth - One Ocean (OEEO) と協力し、海に流出するプラスチック廃棄物の削減を推進しています。

また、多くのビーチクリーンキャンペーンを支援し、2021年には、全長40km、合計10回のビーチクリーンアップ活動で、約1.5トンのごみを回収することができました。

製品の目指す姿の概要

- **2025年までに、すべての製品の包装のサステナビリティを最適化します：**
私たちは、製品の安定性を向上させることで、プラスチック包装を必要としないようにします。例えば、マルチクリーナーOC 3は、パッケージが段ボール製に変更され、ポリスチレンを一切使用していません。また、それによって、パッケージ全体のサイズも小さくすることができました。
- **2025年までに、サステナビリティは新規ビジネスモデルにとって不可欠な要素となります：**
私たちは、シェアリング、サービス、リサイクルなどの分野でケルヒャーのビジネスモデルを再検討しています。Kärcher Used Equipment GmbH社は、中古機械の再生と欧州全域での販売を専門に行い、それによって機械が廃棄されることなく、より長く使用されることを保証しています。
- **2025年までに、一部家庭用および業務用製品における再生プラスチック使用目標率を50%にまで上げます：**
このために、私たちは高圧洗浄機のスプレー・ランスを始めとする製品の未使用プラスチックの使用を削減し、置換を勧めています。

“リデュース、リユース、リサイクル” イニシアティブ

「リデュース、リユース、リサイクル」イニシアティブにより、私たちは、より少ない資源を使用し、リサイクル可能なパッケージや製品を設計するというコミットメントを続けています。これは、2025年までに達成すべき明確な目標に裏打ちされています。この目標は、循環型経済というコンセプトの背景にあるさまざまな側面を考慮したもので、製品のリサイクル可能性や再生素材の使用を増やすことに焦点を当てた製品設計から始めていますしかし、よりサステナブルなパッケージデザイン、プラスチックフリー生産の増加（15ページの「資源効率と水の管理」の項をご参照ください）、新しいビジネスモデルの開発なども課題となっています。例えば、海洋におけるプラスチック廃棄物の削減を提唱するNGO「ワン・アース・ワン・オシャン」との協力関係もそうです（右上の別欄をご参照ください）。

よりサステナブルな包装

私たちのパッケージデザインの持続可能性を高めるアプローチは、循環型経済の概念に基づき、ステナブルなソースからの材料とループを閉じることに重点を置いています。

家庭用製品のほぼすべての包装に使用される紙を10%以上削減することができ、年間約1,500トンの紙を節約することができました。また、フィルム厚の最適化と異なるコンパウンドの使用により、年間230トンのプラスチック使用量を削減することができました。私たちは既に13.3トンものプラスチック製の気泡緩衝材から紙製の緩衝材への置き換えを果たしています。

現在、使用済みのポリスチレンやプラスチックバッグに代わる、再生可能な原材料を使用した代替品に力を入れています。短期的には、既存のプラスチックバッグをリサイクル素材に転換する予定です。

製品に再生プラスチックを使用

ケルヒャー製品に再生プラスチックが使用されることが多くなっています。例えば、高圧洗浄機のスプレーランスや給水ホースの接続ネジには、特に高品質の再生ポリアミドを使用しています。これは、返品されたエアバッグの生地や製造時の残材から得られるものです。これにより、安定した素材品質とその供給が保証されています。さらに、CO₂排出量、水の消費量、化石燃料の使用量を大幅に削減することができます。このリサイクル材は、全体で14種類のスプレーランスと接続ネジにすでに含まれており、その結果、113機種の機械に使用されています。

さらに、スチームクリーナーSCシリーズの下部ハウジング部品など、再生材が入手可能な場合や技術的に可能な場合には、家庭用製品にも再生材を使用しています。ここで使用されているポリプロピレン（PP）素材は、広い温度範囲でその寸法が安定しています。そのため、スチームクリーナーには最適な素材であり、新素材のプラスチックと比べても欠点がありません。

環境に配慮した製品

低排出ガス、環境に配慮した材料選択、使用時の水やエネルギーの節約など、清掃・メンテナンス用製品は様々な面でサステナブルであるべきです。ケルヒャーの責任ある行動は、機械の開発から生産、サプライチェーン、そして正しい廃棄に至るまで、工場の門にとどまることなく継続的に行われています。ケルヒャーのウェブサイトでは、製品例とそのサステナブル度をご覧ください。：

www.kaercher.com/CSR



コンパクトで汎用性が高く、非常に静か。それが「**K 25 サイレント高圧洗浄機**」です。その革新的な静音機能は、同クラスの他の高圧洗浄機と比較して、知覚される騒音レベルを50%削減します。騒音も削減しなければならない排出物なのですから。



「**VCコードレスシリーズの掃除機**」は、特にその効率の良さが特徴です。従来のキャニスター型掃除機の3分の1程度のエネルギーで済みます。例えば、VC 7 Cordlessは、ダストセンサー技術も搭載しています。このため、電源が自動的に調整され、掃除機の稼働時間が長くなります。



「**FC 7 コードレスフロアクリーナー**」は、乾湿両用のあらゆる種類の日常的な汚れを1ステップで除去します。これにより、60平方メートルの床面積を清掃する場合、従来のモップにバケツと比較して、最大90%の節水が可能です。



「**SC 2 Upright EasyFix スチームモップ**」は、化学薬品を一切使用せず、スチーム流量のプリセットコントロールにより、あらゆる密閉されたハードフロアの清掃に理想的です。徹底的な清掃には、必ずしも洗浄剤が必要とは限りません。



高圧洗浄機のスプレーランスは、回収されたエアバッグの生地や製造時の残材からリサイクルして作っています。使用するポリアミドは、30パーセントのグラスファイバーで補強しています。これは、スプレーランスが使用中の高圧に耐え、環境影響や洗浄剤との接触に耐えるものでなければならないからです。また、リサイクル素材の特性は、原材料の特性よりも決して劣っていないことも特筆すべき点です。



超軽量の「BVL 5/1 BP」バックパック型掃除機の軽量化は、生産時に使用したEPPプラスチックによるものです。この素材は、非常に軽量であるだけでなく、完全にリサイクル可能です。また、ブラシレスモーターとエコ・効率モードにより、静かでエネルギー効率の良い運転を実現しています。



スーパーマーケット、空港、倉庫などの広いエリアの清掃を、さらに便利で効率的にするのが、**搭乗型床洗浄機「B 110 R」**です。新開発の搭乗型マシンは人間工学に基づいて設計されており、生産性を向上させながら最高の清掃効果を発揮します。さらに注目すべきは、スピードに合わせて給水が調整されるため、水の消費量が大幅に削減されることです。また、耐久性にも優れ、移動中も静かな機械です。



「**WRB 4000 バイオ水処理システム**」は、洗車システムからの排水を自然な方法で処理する生物学的排水浄化システムです。1時間に最大4,000リットルの水を処理し、最大98パーセントを透明で臭いのない再生水として回路に戻すか、100パーセントを下水道システムへ導くことができます。その際、凝集剤などの化学物質を使用することなく、洗浄剤や乾燥補助剤を確実に除去することができます。



排気ガスの排出を避けるには、発生させないこと、例えば当社の**屋外用電動機器（OPE）**を使うことが一番です。36Vの高い性能と耐久性により、リーフブロワーやヘッジトリマーなどで作業する際に妥協する必要はありません。同時に、ユーザーは静かで、人間工学に基づいた、排気ガスのない作業を行うことができます。



温水高圧洗浄では、水の使用量を大幅に減らしても、同等の清掃効果を得ることができます。さらに、eco! efficiencyモードは、**温水高圧洗浄機**でも使用可能です。このモードが有効な場合、水温はほとんどの清掃作業に十分な60℃に設定されます。



04

従業員と社会

最高の業績、イノベーション、品質は、高いパフォーマンスとモチベーションを持つ従業員の成果です。私たちは、魅力的で柔軟な条件、エキサイティングな仕事、個人の能力開発の機会を提供します。また、会社の枠を超え、世界中の文化、自然、社会のためのプロジェクトを支援し、責任ある行動をとっています。

従業員への責任

世界中の従業員のパフォーマンスは、当社の成功に欠かせません。私たちの人事戦略では、新しい有能な従業員を獲得しながら、現在の従業員を維持することを目的としています。このようにして、私たちは、専門家の不足や人口動態の変化などの課題に対応し、同時に有能な従業員を確保することで競争力を維持したいと考えています。

魅力的な条件

ケルヒャーの魅力的な条件は、主に公正で業績に応じた報酬に基づいています。アルフレッド・ケルヒャーSE & Co. KGでは、これは定義された機能構造に基づいており、したがって均一かつ透明なシステムになっています。私たちは、同一労働同一賃金であることを保証します。また、可能な限り勤務地を越えた規定を設けるとともに、さらなる発展のための選択肢を強調しています。年次標準プロセスでは、給与システムにおける正しい分類を従業員一人ひとりについてチェックします。さらに、マクロ経済と企業固有の状況を考慮し、定期的な給与調整を実施しています。

2013年以来、ケルヒャーはberufundfamilie監査(仕事&家族)により、ファミリーフレンドリー企業に分類されています。この監査は3年ごとに実施され、直近では2020年に実施されました。この監査は、ワークライフバランスを改善するための複数の施策を含む目標合意と運動しています。すでに実施された目的と施策には、労働時間口座の導入や部分退職制度などがあります。さらにケルヒャーは、より多くの父親が育児休暇を取得することを推奨しています。また、ケルヒャーでは、より多くの女性を管理職に登用したいと考えています(詳しくは「機会均等と多様性」の項をご覧ください)。

従業員満足度

私たちの人事管理には、従業員の意見が欠かせません。そのため、私たちは定期的に、彼らの労働生活の数々の側面について尋ねています。2019年に実施した最後の調査では、ケルヒャーが刺激的な仕事とキャリアの機会、チームワーク、オープンで尊敬に満ちた企業文化、幅広い福利厚生とともに良好な労働条件、そして柔軟な労働時間といった、ワークライフバランスに寄与するものと認識されていることが示されました。従業員は、部署間・拠点間の協調と社内プロセスの効率化に関して、さらなる発展の可能性を感じています。その結果、更なる他部署間協調を促進するために、さまざまな施策を各拠点で開始しました。例えば、2020年には、ウィネンデンの拠点で、異なる部門の従業員を集め、社内のワークフローの改善に取り組んでいます。また、パンデミックの影響で2018年の年明けを最後に開催されなくなった従業員世界会議でも、国際的なコラボレーションを高めています。次回の従業員総合調査は、2022年に実施する予定です。

また、従業員の満足度は、会社に対する長期的な忠誠心にも表れています。ドイツのAlfred Kärcher SE & Co. KGでは、従業員の平均勤続年数は14年です。離職率**は非常に低く、わずか1.6%です。

従業員

Kärcher	2020	2021
Kärcher 全世界	13,489	14,403
そのうち Alfred Kärcher SE & Co. KG	3,589	3,777

パートタイマー数 (Alfred Kärcher SE & Co. KG)	2020	2021
男性	209	253
女性	405	426
合計	614	679

年齢別 (Alfred Kärcher SE & Co. KG)	2020	2021
20-29	16.7%	17.1%
30-39	24.4%	24.7%
40-49	22.7%	22.5%
50-59	28.8%	27.4%
≥ 60	7.4%	8.3%
平均年齢	42.8	42.9

新規雇用と離職率 (Alfred Kärcher SE & Co. KG)	2020	2021
新規雇用*	166	392
退職	56	60
離職率**	1.5%	1.6%

年齢別離職率 (Alfred Kärcher SE & Co. KG)	2020	2021
< 24	8	8
25-29	8	13
30-34	16	10
35-39	11	11
≥ 40	13	18

非正規雇用労働者 (Alfred Kärcher SE & Co. KG)	2020	2021
非正規雇用労働者 (月ごとのFTE****平均値)	308.7	287.4
採用の人数	23***	178

* 休職(育児休暇、サティカル休暇、長期疾病)から復帰した従業員は考慮しない。

** 自主退職者のみ考慮。

*** 2020年はコロナウイルスの影響により、派遣社員が大幅に減少しました。

**** FTEフルタイム相当。

表彰される労働条件

2021年、ケルヒャーは経済労働観光省およびバーデンブルテンベルグ労働組合から「familyNET 4.0 - デジタルワーク世界における企業文化」賞を授与されました。この賞は、コロナウイルスの大流行時にも、デジタルワークに関する説得力のあるコンセプトとワークライフ・バランスのための魅力的な提案で傑出していた企業を対象にしています。ケルヒャーは雇用主ランキングでも魅力的な企業であることを証明しています。例えば、DUP誌の「キャリアアップに最適なドイツ企業」ランキングでは、ケルヒャーは非常に高く評価されています。

!DEAS: 従業員のためのアイデア・プラットフォーム

当社の従業員は、アイデアと意欲に満ちあふれています。!DEASは、この2つを会社に貢献させるためのプラットフォームです。2020年のスタート以来、すでに1,100件以上のアイデアが寄せられ、その多くがサステナビリティに関連するものです。ヴィンネンデン工場では、従業員の発案により、Beefuture社と協力して2021年に工場敷地内にミツバチの生息地が作られました。同時に、!DEAS キャンペーンで定期的にアイデアコンテストを実施しています。各部署内のコンペティションに加え、2つの全国的なキャンペーンを実施し、従業員にガーデニングと室内清掃のクリエイティブなソリューションの開発を呼びかけました。300を超える応募の中から最優秀作品が選ばれ、バーチャル授賞式で賞が授与されました。

従業員の育成

ケルヒャーでは、従業員の個人的な責任が重要であると考えています。これは、個人的能力開発と職業的能力開発の両方に適用されます。標準化された人材管理プロセスの一環として、従業員とその上司は、毎年、個人の業績目標、向上させるべきスキル、開発目標などを定義します。その中で、従業員は上司との対話を通じて、個人的・職業的能力開発のために必要な個々の要件を定義することができます。2021年、Alfred Kärcher SE & Co.の従業員は、合計で約2.7日間を更なるトレーニングに費やしました。

継続的な能力開発

ケルヒャーの総合的な能力開発プログラムには、職業的スキル、方法論、社会的スキル、個人スキルに焦点を当てたさまざまなトレーニングが含まれています。2021年末までは、各部門のアカデミーと呼ばれるものを通じて、ケルヒャーが地元で提供していました。2022年からは、これらが統合され、「ケルヒャー・キャンパス」となりました。ケルヒャートレーニングアカデミーには、専門家や管理職を対象としたGROW開発プログラムも含まれています。経営、社会、方法論のスキルは、様々なトレーニングコースやさらなるトレーニングを通じて強化される必要があります。GROWプログラムに適した候補者は、上司と各人事担当者によって推薦されます。関連する必須トレーニングコースは、特定のターゲットグループに割り当てられます。

デジタル・ラーニング・プラットフォームを通じて行われます。従業員は、すべてのトレーニングコースにアクセスし、上司の承認を得た上で、適切な追加トレーニングを予約することができます。

ケルヒャーでは、生涯学習の支援も行っています。エンジニアディプロマ、修士号、学位など、職能外の高等資格の取得を希望する従業員には、一定額の資金を支給するケルヒャー奨学金を設けています。また、ケルヒャーでは、最終成績によって金額が決まる「従業員表彰制度」を設けています。

ケルヒャーは長年にわたり、工業・技術系および商業系の実習生を対象としたトレーニング機関としても成功を収めてきました。Alfred Kärcher SE & Co. KGでは、報告年度中に合計165名の実習生とデュアルシステム学生が雇用され、そのうち約3分の1が女性でした。このうち約3分の1が女性です。彼らはトレーニング&ディベロップメント部門によってサポートされています。研修プログラムの質の高さは、たびたび賞で評価されています。2021年には、シュトゥットガルト商工会議所から、特にエレクトロニクス・エンジニアとITスペシャリストという熟練した職種に対する優れた研修サービスに対して賞状が授与されました。

実習生およびデュアルシステム学生の人数

Alfred Kärcher SE & Co. KG	2020	2021
Alfred Kärcher SE & Co. KG 全体	163	165
商業系実習生	34	34
工業・技術系実習生	70	69
デュアルシステム学生	59	62
実習生の割合	4.5%	4.4%

追加トレーニング日数

Alfred Kärcher SE & Co. KG	2020	2021
従業員ごとのトレーニング日数	1.5	2.7



機会均等と多様性

多様性は、私たちの仕事上の関係、お客様のニーズに対する理解、そして革新的な強さを強化します。私たちは、80カ国以上のケルヒヤーで130以上の国籍の人々が共に働いているという事実を誇りに思っています。多様な労働力へのコミットメントを支えるため、私たちは2021年に「多様性と受容性」というテーマを経営理念に組み込みました。私たちは、ジェンダー、年齢、性的指向、身体的・精神的な能力、宗教、世界観や出身にかかわらず、幅広い意見を取り入れることができる企業文化にコミットしています。

社内で積極的に多様性を推進するため、2021年にまずジェンダー多様性に焦点を当てたプロセスを開始しました。このプロセスの一環として、私たちはまず、ケルヒヤーの具体的な状況を評価し、課題を特定するためのグローバル調査を実施しました。これに基づき、プロジェクトチームは経営陣とともに、ジェンダー固有の障害を打破し、多様性を推進するための最初の方針を決定しました。

その施策として、「ダイバーシティ憲章」イニシアティブに参加しました。このステップを踏むことで、私たちは社内の多様性を推進することを約束します。このイニシアティブ、他の企業、寄付者団体とともに、現在、ケルヒヤーは組織のための多様性監査の開発にも携わっています。この監査によって、将来的に企業独自の多様性戦略を策定し、実施する方法が明らかになるはずですが、また、さらなる対策として、社内で多様性を推進するための部門横断的なプラットフォームである「多様性マネジメントパネル」を設立しています。



多様性と受容性に関する取締役会の声明

「ケルヒヤーでは、私たちの行動、他者への接し方、そして生きた多様性によってインパクトを与えています。80カ国以上の従業員が持つさまざまな視点、専門知識、スキルが、違いを生み出しているのです。なぜなら、お客さまの多様なニーズや問題に目を向ける人だけが、最高の清潔さを提供するだけでなく、価値の保全にも貢献する解決策を示すことができるからです。

多様性と受容性が、私たちの企業文化に生命を吹き込むのです。それは、私たちの会社、特に私たちのコミュニティをさらに発展させてくれるのです。」

従業員

ジェンダー別 (Alfred Kärcher SE & Co. KG)	2020	2021
男性	71%	69%
女性	29%	31%

管理職以上の従業員

ジェンダー別 (Alfred Kärcher SE & Co. KG)	2020	2021
管理職全体		
男性	87%	85%
女性	13%	15%
上級管理職*		
男性	93%	92%
女性	7%	8%
その他管理職		
男性	86%	85%
女性	14%	15%

*部門の責任者、および取締役

労働安全衛生

従業員が健康であることは、会社の業績の大前提です。ケルヒャーは、従業員の健康と安全を非常に重要視しています。どちらも、私たちの企業と経済の成功に不可欠なものです。

職場の安全

一般に、すべての事業所には、各国の職場の安全に関する規制を実施するために、現地に労働安全組織があります。ドイツのケルヒャーでは、労働安全部門が中心的な責任を担っています。この部門は、従業員や派遣労働者の健康と安全を確保するための職場の安全に関するすべての問題や懸念に対処する役割を担っています。これには特に、有害物質の取り扱い、機械の安全性、個人用保護具の提供などの規制が含まれます。

労働安全衛生と健康増進のための親委員会は、安全衛生委員会で、経営委員会のメンバー、各部署の管理責任者、全体労働者評議会、保健所、労働衛生の代表者で構成されています。この委員会は、ドイツのケルヒャーの安全衛生基準や戦略的課題を定義し、疾病率や社内事故などの管理変数や法的要件の遵守を監視しています。一方、事業所レベルでは、健康運営委員会が担当し、すべての事業所がそれぞれの労働評議会を通じて積極的かつ直接的に参加しています。また、各工場では、労働安全委員会の定期的な会合で現在の問題が話し合われています。

すべての労働安全規則を確実に遵守し、必要に応じて適応させるため、私たちは一貫して従業員を関与させています。各事業所では、会社、労働委員会、安全担当者、安全専門家、産業医が参加する労働安全委員会を年4回開催しています。

また、労働者評議会は、健康運営委員会および中央安全衛生委員会に労働者を代表して参加しています。ケルヒャー従業員サーベイにおいては、労働安全衛生も対象としています。従業員には、建物の中心部にあるデジタルブラック・ボードやイントラネットを通じて、安全衛生に関する情報が提供されます。

実際には、定期的な安全教育や調査により、職場の安全確保と事故防止を図っています。例えば、危険物、高電圧バッテリー、車両などの取り扱いや荷物の固定に関する研修を実施しています。また、人間工学や特定の危険有害性など、職場の状況を考慮した個別相談も行っています。

すべての工場では、避難と救助の手順と計画、防火規則、警報と緊急時対応計画が定められています。それでも事故が起きた場合、あるいは危険が判明した場合は、全社的なオンラインシステムを使って記録し、リスクを評価するとともに、各階層に通知しています。また、事故や原因の分析もシステムに保存することができます。2021年の事例では、手指の切創事故が多いことがわかりました。

従業員事故統計

Alfred Kärcher SE & Co. KG	2020	2021
労働時間	7,276,280	7,644,648
報告された事故*	38	44
従業員1000人ごとの事故発生率	10.57	11.65
LTIFR (休業損害度数率)	5.22	5.76
死亡事故	0	0

非正規雇用従事者の事故統計

Alfred Kärcher SE & Co. KG	2020	2021
労働時間	455,400	333,960
報告された事故*	0	2
従業員1000人ごとの事故発生率	0	12.12
LTIFR (休業損害度数率)	0	5.99
死亡事故	0	0

*負傷者の大半は手指の切創でした。

これは、当社のオンラインシステムで傷害を記録することによって決定されました。必要すべての附属設備を提出し、予防策を確認するために取り扱いました。

健康増進

Alfred Kärcher SE & Co.の従業員および各子会社の健康増進のためのすべての活動は、私たちのヘルスセンターに集約されています。KGと各子会社の従業員の健康増進のためのすべての活動は、私たちのヘルスセンターに集約されています。組織的には人事部の下にあり、3つの主要な分野に焦点を当てています。1つ目の産業医療には、一次医療だけでなく、人間工学、依存症、重病後の社会復帰などの健康問題に関するさまざまな相談やスクリーニングが含まれています。2つ目は、ワークライフバランスへの取り組みに関するものです。3つ目は、労働衛生管理（OHM）です。これには、従業員の健康管理をサポートするためのさまざまな活動や予防措置が含まれます。これは、従業員の仕事とパフォーマンスの能力を維持し、個人の健康をサポートするための、多くの活動や予防措置を含んでいます。ケルヒヤーのOHMは中央で管理され、各事業所ではOHM担当者または労働者評議会によって管理されています。また、ケルヒヤーには、介護やメンタルヘルスの問題など、特定の個人的な問題に対処するための社内外の窓口があります。私たちは、すべての活動において、厳格な機密保持が保証されています。

報告年度において、パンデミックによる規制があったにもかかわらず、OHMはさまざまな活動を行いました。その中には、栄養や柔軟な勤務地に関するウェビナー、旅行予防接種からインフルエンザやコロナウイルスのワクチン接種、さらには携帯型センサーによる48時間健康測定まで、さまざまな活動がありました。さらに、従業員は必要に応じて、さまざまな健康トレーニングコースに登録することができます。現在、派遣社員は契約会社を通じてケアを受けていますが、必要であれば、業務に必要な保護装備品もケルヒヤーから提供されています。



自転車にやさしい企業としてのケルヒヤー

健康は、持続可能なライフスタイルと密接に関係しています。そのため、ケルヒヤーでは、環境に優しい手段による従業員の移動を推奨しています。2021年、ケルヒヤーはヴィンネンデン、オーベルソントイム、イリンゲン、ギッシングハイムの各事業所で、自転車にやさしい雇用主としての「シルバー」評価を獲得しました。

EUとADFC（ドイツ全国自転車協会）のこの取り組みは、この問題に対する当社の長年の取り組み、従業員向けの多くの自転車キャンペーン、近年大幅に拡張された駐輪場のある優れたインフラが注目を浴びました。

ケルヒヤーの社内レストラン：健康的で地域密着型のレストラン

ケルヒヤーの社内レストランは、健康的で持続可能な食生活のための基準を設けています。数え切れないほどの取り組みの中で、食品廃棄物の削減、包装廃棄物の削減、地域産品、オーガニック製品、認証製品の使用促進に取り組んでいます。また、地域の生産者と密接な関係を保っています。そのサステナブルな視点は外部からも賞賛を受け、ヴィンネンデン、シュヴァイクハイム、オーベルソントイムにあるケルヒヤーのレストランとイベントエリアは、2020年から「Schmeck den Süden（南部の味）」レストランとして、地域に根ざしたメニューに贈られる賞を受けています。

社会貢献

ケルヒャーでは、社会的責任を自覚しています。そのため、私たちは社会に大きく貢献し、家族、教育、機会均等、環境保護などの価値観を支持する取り組みや組織を支援しています。

寄付やスポンサーシップ、長期的な協力、従業員のコミットメントという3つの分野すべてにおいて、私たちは社会的なステークホルダーとしての役割を真剣に受け止めており、それゆえ、社会的、環境的を問わず、価値の保存に専心しているのです。だからこそ、価値の保全は、2025年のサステナビリティ戦略の3本柱のひとつである「ソーシャルヒーロー」イニシアティブの焦点でもあるのです。

中央組織

ケルヒャーは、本社（ウィンネンデン）を拠点に、グローバルな社会貢献活動を展開しています。これは、コーポレート・シチズンシップ・チームの権限に属します。全社内に社会貢献のガイドライン、基準、原則を記載したマニュアルが配布されます。ケルヒャーの各社は、現地担当者を置いています。この担当者は、中央で定められた行動枠組に基づき、現地に適合した活動を計画・実施する責任を負っています。

2021年、私たちはグローバルなコミットメントをさらに緊密に相互接続しました。このため、私たちは戦略的方向性の目標を全企業に伝えました。同時に、この年に行われたすべてのグローバルな活動を一元的に記録し、それらを重点課題に割り当てました。また、新たな中心的な取り組みやプロジェクトのアイデアも合意されました。2021年には、コーポレート・シチズンシップをテーマとしたトレーニング・コースも全社内でも実施されました。同時に、ベストプラクティス・プロジェクトの交換も開始しました。2022年には、この戦略的アプローチを全社内でも実施する予定です。こうすることで、今後の活動がサステナブルの方向性と一致することを確認できます。





洪水被害地域のために

ケルヒャーは、2021年にドイツで発生した洪水で被災した人々、特にアール渓谷の人々に迅速かつ分かりやすい支援を行いました。ドイツ赤十字社などの支援団体に、緊急に必要とされる高圧洗浄機、汚水ポンプ、発電機、乾湿両用掃除機（付属品を含む）など、総額11万ユーロ相当の機械を提供しました。同時に、ケルヒャーのキッチンチームは、ケルヒャー・フューチャーテックのフィールドキッチンの助けを借りて、洪水の被害を受けたアール渓谷にある支援団体に毎日の食事を提供しました。また、ケルヒャー・フューチャーテックの水処理装置も無償で提供しました。

清潔な水のために

2012年から、世界自然保護基金と協働で、「世界のきれいな水のために」という活動を展開しています。具体的には、飲料水プロジェクトや、排水を浄化するための自然ろ過システム（グリーンフィルターシステム）を導入しています。このように、途上国や新興国における水と衛生の確保に取り組んでいます。2021年には、ヨルダン、ブルンジ、バングラデシュでも同様のプロジェクトを開始しました。

プラスチックのない海のために

ワールド・クリーンアップ・デー2021の一環として、ケルヒャーチームは公共の清掃キャンペーンに参加しました。例えば、ジョージアでは、ケルヒャーの従業員が350kgのゴミを回収しました。デンマークでは、従業員がコペンハーゲン港でゴミの回収を行いました。

世界の子供たちのために

ケルヒャーは、世界中の多くの「SOS子供の村」を支援しており、恵まれない若者とその家族が前向きな生活環境を手に入れることができるサポートを行っています。施設で働く人たちの日々のストレスを軽減し、子供たちと向き合う時間を増やすために、私たちは長年にわたり、施設に資金援助と共に清掃機器を提供してきました。11年間で世界42カ国に1,227台、そのうち2021年だけで147台を寄贈しています。

社会におけるケルヒャー



GRIコンテンツインデックス

掲載の使用説明	ケルヒャーは、2021年までの期間、GRIスタンダードに準拠して報告しています。
GRI 1 使用	GRI 1: foundation 2021
適用される GRIセクター基準	なし

標準／開示	ページ	備考／省略項目
GRI 2: 一般開示 2021		
1. 組織と報告項目		
1 組織の詳細	5	
2 組織のサステナビリティ報告に含まれる事業体	2	
3 報告の期間、頻度、連絡先	2	最終頁の法的情報も参照
4 情報の再掲載		GRI基準に準拠した初の報告書であるため、該当事項はなし
2-5 外部保証		報告に関する外部保証はない
2. 従業員と活動		
6 活動、バリューチェーンおよびその他の取引関係	5	
7 従業員	5, 24	
8 従業員ではない労働者	24	
3. コーポレートガバナンス		
9 ガバナンスの構造および構成	5, 8	
10 最高ガバナンス機関の指名、選定		情報は機密とみなされる
11 最高ガバナンス機関の議長	5	
12 インパクトの管理を監督する最高ガバナンス機関の役割	5	機密扱いの追加情報
13 インパクトの管理責任の譲渡	6, 8	
14 サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	8	
2-15 利益相反		情報は機密とみなされる
2-16 重要な懸念事項の伝達		情報は機密とみなされる
2-17 最高ガバナンス機関の集合知		情報は機密とみなされる
2-18 最高ガバナンス機関のパフォーマンス評価		情報は機密とみなされる
2-19 報酬に関する方針		情報は機密とみなされる
2-20 報酬の決定プロセス		情報は機密とみなされる
2-21 年間総報酬比率		情報は機密とみなされる
4. 戦略、方針、プロセス		
22 サステナブル開発戦略に関する声明	3	
23 方針のコミットメント	5-6	
24 方針のコミットメントの具体化	5-6	
25 負のインパクトを是正するためのプロセス	6	
26 助言を求めたり懸念を表したりするための仕組み	6	
2-27 法律および規制の順守		情報は機密とみなされる
2-28 会員制度	7	
5. ステークホルダー・エンゲージメント		
2-29 ステークホルダー・エンゲージメントのアプローチ	6	
2-30 団体交渉の合意		情報は機密とみなされる

標準／開示	ページ	備考／省略項目
GRI 3: マテリアル項目2021		
3-1 マテリアル項目を決定するプロセス	10	
3-2 マテリアル項目の一覧	10	
GRI 201: 経済的パフォーマンス2016		
3-3 マテリアル項目の管理	5	
GRI 201-1: 創出、分配された直接的な経済価値	5	
GRI 201-2: 気候変動に伴う財務上の影響およびその他のリスクと機会	13	
GRI 201-3: 確定給付型年金制度およびその他の退職給付制度		情報は機密とみなされる
GRI 201-4: 公的資金による財務支援		情報は機密とみなされる
GRI 203: 間接的経済影響 2016		
3-3 マテリアル項目の管理	29	
GRI 203-1: 支援するインフラ投資とサービス	29-30	
GRI 203-2: 顕著な間接的経済影響	29-30	
GRI 204: 購買に関する慣行 2016		
3-3 マテリアル項目の管理	11	
GRI 204-1: 現地サプライヤーへの支出の割合	11	
GRI 205: 汚職防止 2016		
3-3 マテリアル項目の管理	6	
GRI 205-1: 汚職に関連するリスクについて評価された業務		情報は機密とみなされる
GRI 205-2: 汚職防止に関する方針および手順についてのコミュニケーションと研修	6	
GRI 205-3: 確認された汚職事件と取られた措置		情報は機密とみなされる
GRI 206: 反競争的行動 2016		
3-3 マテリアル項目の管理	6	
GRI 206-1: 反競争的行動、反トラスト及び独占的慣行に関する法的措置		情報は機密とみなされる
GRI 207: 税務 2019		
3-3 マテリアル項目の管理	6	
GRI 207-1: 税に対する取り組み	6	
GRI 207-2: 税務のガバナンス、統制、およびリスク管理	6	
GRI 207-3: ステークホルダーの△および税に関する懸念の管理	6	
GRI 207-4: 国別報告書	6	
GRI 301: 資材 2016		
3-3 マテリアル項目の管理	15-16	
GRI 301-1: 重さ、または量に基づいて使用される資材	15	
GRI 301-2: リサイクル資材の使用	15	
GRI 301-3: 最盛製品およびその包装材	15	

標準／開示	ページ	備考／省略項目
GRI 3: マテリアル項目 2021		
GRI 302: エネルギー 2016		
3-3: マテリアル項目の管理	14	
GRI 302-1: 組織内のエネルギー消費量	14	
GRI 302-2: 組織外のエネルギー消費量	14	
GRI 302-3: エネルギー強度	14	
GRI 302-4: エネルギー消費削減	14	
GRI 302-5: 製品およびサービスにおけるエネルギー必要量の削減	19, 22	
GRI 303: 上水および排水 2018		
3-3: マテリアル項目の管理	16	
GRI 303-1: 共有資源としての水の相互作用	16	
GRI 303-2: 放水関連の影響の管理	16	
GRI 303-3: 取水	16	
GRI 303-4: 放水	16	
GRI 303-5: 水の消費		現在データなし
GRI 305: 排出 2016		
3-3: マテリアル項目の管理	13-14	
GRI 305-1: 直接的温室効果ガス排出 (Scope 1)	14	
GRI 305-2: 間接的温室効果ガス排出 (Scope 2)	14	
GRI 305-3: その他間接的温室効果ガス排出 (Scope 3)	14	
GRI 305-4: 温室効果ガス排出の濃度	14	
GRI 305-5: 温室効果ガス排出削減	14	
GRI 305-6: オゾン層破壊物質の排出 (ODS)		該当事項なし
GRI 305-7: 窒素酸化物 (NO _x), 硫黄酸化物 (SO _x) その他の排出		
GRI 306: 廃棄物 2020		
3-3: マテリアル項目の管理	15-16	
GRI 306-1: 廃棄物発生量および廃棄物に関する重大な影響	15-16	
GRI 306-2: 廃棄物に関する重大なインパクトの管理	15-16	
GRI 306-3: 廃棄物発生量	16	
GRI 306-4: 廃棄物処理からの転換率	16	
GRI 306-5: 廃棄物処理への取り組み	16	現在データなし
GRI 308: サプライヤー環境アセスメント 2016		
3-3: マテリアル項目の管理	11	
GRI 308-1: 環境基準に基づいてスクリーニングされた新規サプライヤー	11	
GRI 308-2: サプライチェーンにおける環境的負のインパクトとその対応	11	
GRI 401: 雇用 2016		
3-3: マテリアル項目の管理	24	
GRI 401-1: 従業員の新規雇用と離職率	24	
GRI 401-2: フルタイム従業員には提供されるが、臨時あるいはパートタイムの従業員に提供されない福利厚生	24	情報は機密とみなされる
GRI 401-3: 育児休業	24	2023年現在のデータ入手の見込み
GRI 403: 労働安全衛生 2018		
3-3: マテリアル項目の管理	27-28	
GRI 403-1: 労働安全衛生管理システム	27-28	
GRI 403-2: 危険の特定、リスクアセスメントおよび事故調査	27	
GRI 403-3: 産業保健サービス	27	
GRI 403-4: 労働安全衛生に関する労働者の参加、協議およびコミュニケーション	27	
GRI 403-5: 労働安全衛生に関する労働者教育	27	
GRI 403-6: 労働者の健康増進	28	

GRI 403-7: 雇用関係に直接関連する労働安全衛生への影響の防止と軽減	27	
GRI 403-8: 労働安全衛生管理システムの対象となる労働者	27	
GRI 403-9: 業務上の負傷	27	
GRI 403-10: 業務上の健康被害		現在データなし
GRI 404: トレーニングと教育 2016		
3-3: マテリアル項目の管理	25	
GRI 404-1: 従業員ごとの年間平均トレーニング受講時間	25	
GRI 404-2: 従業員の技能向上プログラムおよび移行支援プログラム	25	
GRI 404-3: 定期的にパフォーマンスおよびキャリア開発のレビューを受けている従業員の割合	25	
GRI 405: 多様性と機会均等 2016		
3-3: マテリアル項目の管理	26	
GRI 405-1: ガバナンス機関と従業員の多様性	26	
GRI 405-2: 基本給と報酬の男女比		情報は機密とみなされる
GRI 406: 差別の禁止 2016		
3-3: マテリアル項目の管理	26	
GRI 406-1: 差別事件の発生と取られた是正措置		情報は機密とみなされる
GRI 407: 結社の自由と団体交渉 2016		
3-3: マテリアル項目の管理	11, 24	
GRI 407-1: 結社の自由と団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある業務やサプライヤー		2023年現在のデータ入手の見込み
GRI 408: 児童労働 2016		
3-3: マテリアル項目の管理	11	
GRI 408-1: 児童労働事例の顕著なリスクの可能性のある業務やサプライヤー		2023年現在のデータ入手の見込み
GRI 409: 強制労働 2016		
3-3: マテリアル項目の管理	11	
GRI 409-1: 強制労働事例の顕著なリスクの可能性のある業務やサプライヤー		2023年現在のデータ入手の見込み
GRI 413: 地域コミュニティ 2016		
3-3: マテリアル項目の管理	29-30	
GRI 413-1: 地域コミュニティへの参画、影響評価および開発プログラムを伴う業務	29-30	
GRI 413-2: 地域コミュニティに対して顕著な負のインパクトを実際に与える、または与えうる業務		顕著なインパクトなし
GRI 414: サプライヤーの社会的評価 2016		
3-3: マテリアル項目の管理	11	
GRI 414-1: 社会的基準でスクリーニングされた新規サプライヤー	11	
GRI 414-2: サプライチェーンにおける社会的負のインパクトとそれに対する取り組み	11	
GRI 416: 顧客の健康と安全 2016		
3-3: マテリアル項目の管理	18	
GRI 416-1: 製品およびサービスのカテゴリーにおける安全衛生のインパクトに関する評価	18	
GRI 416-2: 製品およびサービスの安全衛生のインパクトに関するコンプライアンス違反の事例	18	報告年度中に判明した事象なし
GRI 417: マーケティングと表示 2016		
3-3: マテリアル項目の管理	19	
GRI 417-1: 製品およびサービスの情報ならびに表示に関する要求事項	19	
GRI 417-2: 製品およびサービスの情報と表示に関する違反の事例		報告年度中に違反が行われた認識なし
GRI 417-3: マーケティングおよびコミュニケーションに関するコンプライアンスの違反		報告年度中に違反が行われた認識なし
GRI 418: 顧客の個人情報 2016		
3-3: マテリアル項目の管理	6	
GRI 418-1: 顧客のプライバシー侵害および顧客データの紛失に関する実質的な苦情		報告年度中に違反が行われた認識なし

KÄRCHER

makes a difference

LEGAL INFORMATION

Publisher

Alfred Kärcher SE & Co. KG
AlfredKärcherStraße 28-
40 D71364 Winnenden
T +49 7195 140
F +49 7195 142212
sustainability@de.kaercher.com
www.kaercher.com

Design, editing, text and creative

direction Vera Umbrecht, David Wickel-
Bajak, Marina Kunert, Marie Kristin
Schmidt and Margit Mehlo, Alfred
Kärcher SE & Co. KG
akzente kommunikation und beratung
GmbH Aija Ahola, aha grafikdesign

Photographs

Alfred Kärcher SE & Co. KG

THE STORIES BEHIND THE FIGURES

ケルヒャーにおけるサステナビリティと仕事やプロジェクトを通じて未来に向けて会社を推進させる人たちについての詳しいストーリーは、こちらまで

www.kaercher.com/CSR